

## 新雪蹴って会津駒ヶ岳

'91.2.9-11 L岩 毅 SL蔵田, 小森宮, 高野, 遠山, 馬場,  
白沢 岩 淳子, (RSSA)田村, (RSSA)加藤

2/9 晴 大阪組は只見線の接続が悪く、やっと昼過ぎに檜枝岐に着く。先に着いていた高野さん、馬場さんの出迎えをうける。好天なので、予定通り、偵察がてら、駒の小屋に至る尾根の中腹までをめぐりに出発する。先行トレースが夏道沿いにある。林道終点(1070m)からアンテナ(1370m)までの尾根末端はキックターンと急登の連続で苦勞させられる。遠山さん、田村さん、加藤さんの強脚組は駒の小屋近く(1900m付近)まで行った。

下りはアンテナ付近から東に向かって下の沢に直接下る沢を滑る。雪質上々の深雪だった。標高差300mのダウンヒルを楽しむ。

(タイム)檜枝岐13:30 ～～滝沢橋(930m)13:45 --- アンテナ(1370m)15:30 ～～滝沢橋16:00 --- 檜枝岐16:15

2/10 曇|雪 三つ玉低気圧の影響で天気は下り坂ではあったが、出発する。昨日苦勞した夏道尾根末端は、宿の主人の話から、林道終点から見て、夏道の反対、南側の尾根にとりつく。だいふ楽である。強脚組に先頭で行ける所までどんどん飛ばしいていってもらおう。トップ～ラストでかなり差がついたが、トランシーバーを有効に使い、不安はなかった。トップは11時前に駒の小屋(2060m)に着いたが、強風とホワイトアウトで、山頂は断念した。ラストは12時に1990m 点に達するか悪天とタイムアップで諦める。

12時半、1650m 点に全員集合して、下山にはいる。下りは、ここから、尾根の東側の斜面を下の沢に向かって、まっすぐ滑る。ぶな林の中の新雪の大滑降であった。標高差600mを思う存分、雪と戯れることが出来た。

(タイム)檜枝岐7:25 ～～滝沢橋(930m)7:40 --- 駒の小屋(2070m)11:00, 12:00 ～～1650m 点  
12:45 ～～滝沢橋13:15 --- 檜枝岐13:30

2/11 曇|雪 10日の夜は雨になり。そして、前線の抜けた今朝は、冷え込む。あまり、いい雪質は期待できない。おまけに、天候は、冬型の気圧配置になり、荒れそうである。結局、ゲレンデスキーをする組と、すぐ帰る組に別れ、解散する。2月の会津駒は新雪が素晴らしい。思っていた以上に楽しめる。アプローチは、車が一番便利だが、鉄道も東武のスノーパルをうまく利用すると、時間に無駄がなくなる。

(終わり、記 岩 毅)